

「讚美歌を歌うところ」

発題 今井牧夫(京北教会牧師)

1. はじめに

ペンテコステ(聖霊降臨日)から始まった最初の教会は、みんなが一つになってパンをわけあい、主イエスを信じて神様を讚美していた。今日は、その最初の教会になったつもりで、みんなで歌いましょう。でも、讚美歌を歌うときは少し心が堅くなりがちかも。そこで今回は、「私が好きな讚美歌」の軽い話につきあってもらいつつ、肩の力を抜いて歌って下さい！

2. 理屈じゃない！ まず聴くこと。まず歌うこと。「こどもさんびか」はたのしい！

こどもさんびかへの私の思い——「自然と歌える讚美歌がいいなあ」

- (1)こどもさんびか 58 番「どんなにちいさいことりでも」
- (2)こどもさんびか 40 番「かみさまのあいは」
- (3)こどもさんびか 84 番「イエスさまのじゅうじかを」
- (4)こどもさんびか 117 番「さあ てをくんで」

こどもさんびかの素敵なところは、「音楽のリズム」と「言葉の力」が明快なところ。元気で、ストレートな流れ、おもしろさがあり、自然に歌えるこどもさんびかは良い。

3. 自然と覚える！ 「伝統的な讚美歌」は力強い！

子どものころの私の思い——「覚えやすく歌いやすい讚美歌がいいなあ」

- (1)讚美歌 21—280 番「まぶねのなかに」歌詞でイエス様の生涯を表している→意味がわかる！
- (2)讚美歌 1 編—453 番「きけや愛の言葉を」 盛り上がりがある！
- (3)讚美歌 1 編—130 番「よろこべや、たたえよや」 この曲知ってる！ 聴いたことがある！

子どものときに、大人の礼拝につきあわされて？ さまざまな讚美歌を歌いました。歌いやすい讚美歌の代表は、「主われを愛す」「いつくしみ深き」。でもそのほかに、大人の礼拝でよく歌われていた讚美歌のなかに、自分としての「好み」を感じる歌がありました。

「主よ御手もて」「主よ、終わりまで」「やすかれわが心よ」「いさおなき我を」

「主よわれをば」「主のとうときみことばは」「かみはわがやぐら」「ただしくきよくあらまし」

「ナルドの壺」……などに魅力(温かみや勇氣)を感じていました。

4. 心が背伸びする！ 民衆音楽との結合や現代創作は、無限の広がり！

10～30代のわたしの思い——「かっこいい讚美歌がいいなあ」

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 21—471 番「勝利を望み」 | 2 編 152 番「古いものはみな」 |
| 21—254 番「小鳥も飛び去る冬のさなか」 | 21—57 番「ガリラヤの風かおる丘で」 |
| 21—201 番「天使の言葉も」 | 21—271 番「喜びは胸に」 |
| 21—303 番「丘の上の主の十字架」 | 21—419 番「さあ共に生きよう」 |
| 21—563 番「ここに私はいます」 | 21—575 「球根の中には」 |

(1) ところで、讚美歌において「かっこいい」とは何か？ 私が考えるのは、音楽や言葉それ自体の個性。そして、人の心に寄り添う、メッセージ性。これらは、歌謡曲、ロック、ポップスといった、ポピュラーソングと共通する。

(2) ポピュラーソングとは、元来は生活に密着した音楽。黒人霊歌、民謡、あるいはロック、ポップスなど、生活の場での音楽と、教会の信仰が出会い、結びついて、新しい讚美歌の力が生まれる。

(3) 伝統的な讚美歌でも、新しい讚美歌でも、どちらも実は、「神への信仰を歌う」という公式の盾に守られる形で、生活の中での様々な喜怒哀楽が内部に織り込まれて歌われているのではないだろうか。そういう意味で、讚美歌は神の前での人の心を美しく織り込んだ芸術でもある。

(4) 人の心は、人の前で屈折し、神の前でまっすぐにされる。屈折の苦しみと、そこからの脱出を通じて生まれる芸術、あるいは生きる喜びとしての讚美歌、そうとらえてもいいと思う。

5. これからも讚美歌を歌い続けよう

現在のわたしの思い——「他の人と歌える（他者も一緒に歌ってくれる）讚美歌がいいなあ」

京北教会のみなさまの愛唱讚美歌の数々。 1 編 496 番「うるわしのしらゆり」

1 編 489 番「きよき岸边に」 1 編 467 番「思えば昔イエス君」 1 編 510 番「まぼろしの影を負いて」

- (1) 伝統的な讚美歌は、教会との「なじみ」がいい。力強く、心が広々する感じ。
- (2) 現代的な讚美歌は、個人の心との「なじみ」がいい。優しくて温かくてカッコいい。
- (3) 上のどちらも、自分と神様との間の「なじみ」を生み出し、人を生きさせる力になる。
- (4) そんな素晴らしい讚美歌の力を、教会のみんなと一緒に引き出してみたい。
- (5) 「讚美歌を歌うところ」とは、神を愛するところと、自分を愛するように隣人を愛するところ。

(マルコによる福音書 12 章 28～34 節を参照)

最後に歌いたい讚美歌……こどもさんびか 34 番「キリストのへいわ」